

# 郷中だより

令和 2 年 2 月 19 日  
倉敷市立郷内中学校長発行  
学校だより 第 25 号

2 月 3 日に倉敷市庁舎で「よい子強い子表彰式」が行われ、本校から 3 名が出席しました。

よい子強い子表彰は、日常生活において他の模範となったり、各種競技会等において優秀な成績を収めたりした個人や団体に贈られます。

## 【受賞者の感想】

○自分たちの活動や行動をこのように評価していただくのは、とても嬉しく思うし、とても緊張したけどいい経験ができました。これからも「よい子強い子」に選ばれたことに誇りをもって、同じ生徒会メンバーと一緒に様々な活動をしていくと思います。 (2年 久米さん)



○よい子強い子の表彰式に出て緊張したけどうれしかったです。今回の賞は、陸上部の代表としてもらったと思っています。このような賞をもらえることはめったにないので、自信をもってこれからもがんばりたいです。 (2年 長尾さん)

○私が今まで頑張ってきたことが今回、倉敷市のよい子強い子として表彰された、とてもうれしかったです。これからも陸上に情熱をもって取り組み、更にレベルアップできるように努力していきます。 (3年 塚本さん)

## 鷲羽山ロードレース

1 月 26 日、「第 60 回鷲羽山ロードレース大会」が開催され、郷内中からは野球部、陸上競技部、ソフトテニス部の 50 名が参加しました。天気の心配もしましたが、当日は雨もやみ暖かくなりました。開会式後、9 時 10 分から順次スタートし、ゴール前の坂ではとても苦しそうでしたが、全員最後まで力いっぱい走りきました。

若さあふれる走りっぷりに見ている私も元気をもらいました。よくがんばりました！



入賞者は次のとおりです。おめでとうございます。

丸山さん	中学 1 年女子の部	第 8 位
楠戸さん	中学 2 年男子の部	第 6 位
大塚さん	中学 2 年女子の部	第 2 位
瀬井さん	中学 2 年女子の部	第 3 位
山形さん	中学 2 年女子の部	第 4 位
澤村さん	中学 1 年男子の部	第 6 位
川上さん	中学 1 年女子の部	第 2 位
田邊さん	中学 1 年女子の部	第 3 位



[裏面に続く](#)

# 性教育講演会～いのちをつなぐためにできること～

2月12日に、川崎医科大学付属病院の助産師でいらっしゃる阿部先生に、出前講座をお願いしました。まず初めに、「命」と聞いて何を連想しますか?という先生の問いかけに、「心臓」と答えた1年生がいました。お母さんのお腹の中で赤ちゃんの心拍が確認できるのは、妊娠6週目くらいだそうです。16週ごろにはヘその緒や胎盤ができているそうです。続いて、「赤ちゃんを見た感想は?」と先生に質問され、「ぴかぴかしている」と別の1年生が答えました。赤ちゃんはお母さんのお腹の中で、羊水の中にいるのでぴかぴかしていることも説明してくださいました。



さらに、妊婦さん体験をされた瀬川先生からは、「お腹の中に大切な赤ちゃんがいると思うと、動く時にも気を遣うし、じっと座っているのも苦しい。重たい。足がしびれる」という感想でした。最後に、AED(自動体外式除細動器)は学校、公民館、駅、病院、デパートなど人の集まる場所には設置してあることや、倒れている人を発見した時は、心臓マッサージをすることができなくても、近くにいる大人に助けを求めたり、救急車を呼んだりすることはできるということも確認できました。

## 【生徒の感想】

○僕も心肺蘇生法について学んだことがあります、もしも本当に目の前で人が倒れたら、ちゃんとできるかどうか不安になりました。いつでも命が救えるように、AEDの場所や使い方を確認しておこうと思いました。それだけでなく、簡単に人を傷つける言葉を使わないことや、思いやりをもって自分も周りの人の命も大切だということを忘れないように行動していきたいです。

## 【講演を聴かれた保護者の方から】

○今回の公演から大切な命を大切にすることとは、思いやりの心をもち生きる術を知り、その大切さを見つけながら、自分と人を守ることと気づかされた非常に良い機会になりました。私にとってのダーリンは「私の家族」です。生かされていることに感謝し家族とともに家庭を育み、支え合いながらこれからも寄り添っていきたいと思っています。



今回の阿部先生の講演と人権講演会の瑠璃先生のお話に共通していたのは、「私たち一人一人がいただいた命は、自分一人のものではない。誰かの力になるために授かったものである。」ということでした。誰かの力になるたびに、ますます輝きを放ち元気になる命。思う存分に輝かせて生きていきたいですね。